

# プログラム

## 第1部

### 【琴・木田敦子】

#### 1「六段の調」八橋検校作曲 江戸時代初期(1600年代)の作

箏曲の祖、宮城道雄が作った段物の一つで、箏の曲としては一番古く、また一番有名と言えるかもしれません。遅いテンポから始まり、だんだん速くなり、曲尾はまた遅くなって終わります。今日は、六段のうちの一・三・六段をお聴きいただきます。

#### 2「三つの遊び」宮城道雄作曲 1943(昭和18)年の作

昔の子どもたちの代表的な遊びをとりあげた三つの小品。

<まりつき>とくに女の子が好きだった鞠つき遊び。まりの弾む様子がよく表現されています。

<かくれんぼ>「もういいかい」「まあだだよ」のやりとりと、一目散に駆け出す様子などを描写している。

<汽車ごっこ>蒸気機関車が動きだし、加速、疾走、そして田舎の小駅に停車したり、遊び心に溢れた作品。

#### 3「十七絃独奏による主題と変容“風”」

牧野由多可作曲 1965(昭和40)年の作

十七絃は、1921(大正10)年に宮城道雄によって創案された低音の箏です。初めは合奏の低音部を受け持つ楽器でしたが、1960年代頃からの現代邦楽の発展とともに、だんだん重要な位置をしめるようになりました。この曲は、十七絃のためにかかれた最初の独奏曲です。

〈解説:木田敦子〉

### 【馬頭琴・ウルグン】

#### 1「ジュスレ」編曲:チ・ボラグ

ジュスレ はモンゴル語で 女の子の名前です。内モンゴルの東北地方の民謡(18世紀後半～19世紀前半の民謡)から編曲された曲です。ジュスレ、ムスレという名前のとても美人の双子がいました。そしてジュスレは大人になりまして恋人が出来ました。彼氏と二人はお互いに大好きで、好き合っていました。現地の王様がジュスレの事を好きになりジュスレを自分の妃にしまいました。民謡はジュスレとその彼氏お互いの事を思い出している愛の悲しい歌です。編曲したのは内モンゴルの有名なモリホール(馬頭琴)演奏家 チ、ボラグ先生です。

#### 2「草原の列車」(tumur bukh) 作曲:ナ・フグジレト

広い草原に走る列車をイメージした曲です。作曲者の ナ・フグジレト先生のお爺さんがモンゴルのもう一つの伝統音楽であるholvoo (ホルボ)という形の歌を歌う有名人で、そのお爺さんがtumur bukh (草原の列車)というholvoo(ホルボ)を作りました。この曲は それを基準にして1980年代に作られた新しい曲です。

### 「恩」作曲:ウルグン

この曲は、子供のお母さんへの恩、そして大切な人への恩、人間として私たちが住んでいる大地、地球への恩という色々な恩に思いを馳せて作った曲です。この曲は2011年に市川猿之助監督の舞台「チンギスハーン」の為に作りました。

#### 4<ホーミ>「マンドゴラハーンの讃歌」

ホーミはモンゴルの極めてユニークな伝統音楽で、特徴としては喉から二つ、または三つ以上の声を同時に発声する事です。今のモンゴル国にあるアルタイ山脈の近くに住んでいたモンゴル人達が自然の音を真似てホーミを創り出したと言われていいます。マンドゴラハーンはモンゴル語で、マンドゴラ=人の名前、ハーン=王様 という意味です。昔、モンゴルも色々な王様がいました。その中で特にマンドゴラという王様が国民の為に一所懸命尽くしてくれた事にその時代の国民が感動して、その王様を讃えて歌った曲です。

#### 5「ボルジギン草原」(borjigon tal) 作曲:テメルチドル

広い草原のイメージを表した曲です。

〈解説:ウルグン〉

————— 休憩 15 分間 —————

## 第2部

### 【琴と馬頭琴の合奏と朗読】

#### 「スーホの白い馬」

『スーホの白い馬』は、モンゴルの民謡で、モンゴルの伝統楽器「モリホール(馬頭琴)」の由来にまつわる物語です。日本では、大塚勇三が1967年に中国語のテキストから採話し、赤羽末吉の絵とともに福音館書店から絵本として出版され幼児向けの良書として多くの家庭で愛読されました。その後、ほぼ同時期に光村図書出版の小学校2年生の国語教科書にも採録されました。

### 【琴と馬頭琴による<四季>】

#### 1「春の海」宮城道雄作曲 1929(昭和4)年の作

宮城道雄の代表作として、大変有名な曲です。この「海」は、瀬戸内海です。瀬戸内の島々の綺麗な景色、波の音、鳥の声、舟の櫓をこぐ音やその勇ましさなどを表していると言われています。本来は、尺八と琴の二重奏ですが、今日は馬頭琴と琴で、また違った海の景色を感じていただきたいと思います。

#### 2 ヴィヴァルディの四季から“春”～春の小川～おぼろ月夜

#### 3 海～我は海の子

#### 4 荒城の月 村まつり～里の秋

#### 5 雪～たき火～春がきた



PHOTO: ヒダキトモコ

